

平成 29 年度富山県民生涯学習カレッジ運営会議について

1 設置目的

生涯学習カレッジの運営に関する基本的事項を調査審議するもの

【富山県民生涯学習カレッジ条例 第7条より】

2 委員名簿 13名（五十音順）

赤川 雅和	富山短期大学幼児教育学科教授、新川地区センター運営会議会長
伊東 眞	滑川市教育委員会教育長
上埜眞知子	富山県婦人会事務局長
大西ゆかり	富山県PTA連合会副会長
笹田 茂樹	富山大学人間発達科学部教授、富山地区センター運営会議会長
清水 賢	富山県公民館連合会事務局長
仲井 文之	富山国際大学子ども育成学部教授、砺波地区センター運営会議会長
長尾 順子	公募委員
中川美彩緒	富山県水墨美術館館長
中西 彰	富山県生涯学習団体協議会会長
深井 康子	富山短期大学地域連携センター長、富山短期大学食物栄養学科教授 高岡地区センター運営会議会長
藤田公仁子	富山大学地域連携推進機構生涯学習部門教授
松原 隆光	富山県経営者協会教育委員会委員長

3 会議概要

(1) 開催日時 平成 30 年 2 月 20 日（火）14:00～15:50

(2) 開催場所 富山県教育文化会館 403 号室

(3) 議題

【報告事項】

- ・平成 29 年度事業実績について
- ・平成 30 年度事業計画について
- ・昨年度の本部運営会議における意見・要望への対応状況について

【協議事項】

- ・富山県民生涯学習カレッジの運営に係る現状と課題について

(4) 会議資料

議事関係資料、参考資料

(5) 配布資料（パンフレット等）

富山県民生涯学習カレッジガイド、学遊とやま、とやま学遊ネット、
平成 30 年度自遊塾生（講座受講者）募集要項、富山県映像センター利用案内、
夏季講座叢書（「幸せになる勇気」 講師 岸見一郎）、
映像教材（DVD「富山湾 美しい湾を未来につなぐ」全国地域映像コンクール優秀賞受賞作品）

4 審議事項等

■出席者

- 【運営委員】 赤川委員、伊東委員、上埜委員、大西委員、笹田委員、清水委員、仲井委員、長尾委員、中川委員、中西委員、深井委員、藤田委員、松原委員
- 【事務局】 山崎学長、松島新川地区センター副所長、永田富山地区センター副所長、尾崎高岡地区センター所長、中山砺波地区センター所長
岩河生涯学習・文化財室社会教育主事、中明副学長、中野企画管理課長
鶴映像センター課長、大野社会教育主事

■開 会

(1) 学長挨拶

カレッジは昭和 63 年 10 月に開学し、今年は 30 周年目を迎えているところであり、10 月には「30 周年記念事業」も企画している。

当初は、何十本もの大型講座の開催、教育文化会館内の会議室を使った専門的な講座を開くなど、県民の皆さんに様々な学習の機会を提供してきた。

平成 13 年に新川・砺波地区センターが設置され、現在は、4 箇所地区センターでいろいろ学習機会を提供している。

いろいろと変遷してきたが、普遍的なこととして、生涯学習カレッジが担う大きな役割は、①学習機会の提供 ②生涯学習情報の提供 ③生涯学習の相談に関わる対応 ④映像センター、映像学習教材を介した各種機会の提供【本部】 ⑤生涯学習に取り組む皆様の交流の場・学習成果の発表の場の提供 という 5 つのことである。

本日お集まりいただいた委員の皆様方には、カレッジの基本的事項についてご審議いただくことになるが、これら 5 つのことに係るいろいろな課題について、皆さんの豊富な知識や経験に基づくご意見をいただければ大変幸いに思う。

(2) 委員紹介

委員任期満了に伴う改選後初めての運営会議であり、副学長より紹介

(3) 会長選出・職務代理者の指名

委員の中から中西委員を推挙する声上がり、拍手をもって了承される。

中西会長が、清水委員を職務代理者に指名

■報告事項

(1) 平成 29 年度事業実績【議事関係資料 (P1~P4) 参考資料 (P1・P3~P5) 事務局説明】

①本部：講座関係

大型講座 2 講座（夏季講座・特別講座）の開催

学習団体講座（富山県生涯学習団体協議会に委託）5 講座の開催

高志の国まなび師範養成塾講座（新規事業：本年度限り）1 講座の開催

自遊塾・連携講座の開催

参考資料 (P4 講座受講者数の推移について)

受講者数は大幅に増加：H28 10,347 名 → H29 12,673 名

②本部：関連事業関係

生涯学習情報提供（とやま学遊ネット）：アクセス件数 73 万件程度の見込み

学習相談（主に電話や窓口による相談）：1 月末実績で 9,783 件、月平均約 1,000 件

学習成果発表【学遊祭 10 月 7 日開催】：ミニ講座 5 講座、作品展示等を実施 参加者 1,819

名

カレッジ叢書（夏季講座（岸見一郎氏の「幸せになる勇気」）の記録）1冊作成
学習活動支援サービス（カレッジカードの発行・マイページ会員へのメールサービスの実施）
広域学習サービス連絡会議（地区センターで開催）

③映像センター関係

ふるさと富山の映像の制作と配信、優秀映像鑑賞推進、
各種研修会、講座の開催、映像貸出等利用支援

④地区センター関係

ふるさと発見講座（「人間探究コース」10講座・「教養・実践コース」21講座 計31講座）
ふるさと文化探究講座（2講座）、学遊祭・キャンパスフェスティバル

参考資料（P5 ふるさと発見講座等の受講状況）

地区主催のふるさと講座は受講希望者が定員を上回る傾向にある。
ふるさとに係る講座の定員1,318名 ➡ 申込1,610名 ➡ 受講決定1,321名

(2) 平成30年度事業予定【議事関係資料（P5～P6）参考資料（P2）事務局説明】

①本部：講座関係・開催事業について

夏季講座、団体講座、自遊塾、連携講座の4種類の講座を実施
平成30年10月6日にカレッジ30周年記念式典と併せて学遊祭実施

②映像センター関係

30年度においてもふるさと富山の作品を制作する予定
デジタル映像ライブラリーについては、より快適な利用を目指すため、システムを更新
上映会については引き続き75回程度の開催を企画、サテライト会場等の利用を検討

③地区センター関係

ふるさとに係る講座の大幅な見直し
ふるさと探究講座（基礎・専門）：ふるさと発見講座をリニューアル・拡充
新 地域課題学び活かし講座：地域課題を学びたいとの要望に応えるもの
共学講座・学遊祭は記載のとおり

(3) 昨年度の本部運営における意見・要望への対応状況について【議事関係資料（P7）事務局説明】

①地区センター関係講座について

募集案内で講座内容を分かりやすくのご指摘をいただいた講座だよりについて、写真を多くするなどの工夫を行った。

②情報提供について

学遊ネットのアクセス件数が減少しているのは、情報更新が上手くいっていないのが原因では
とのご指摘を受け、新しい情報の速やかな更新、古い情報を削除、登録している講師情報について
も、調査・確認し、更新作業を行っている。

③学習相談について

学びのニーズを把握し、講座企画に反映できないかとのご指摘を受け、ニーズの確認のためア
ンケートを行い、ふるさとに係る講座、現代的課題に係る講座への要望等が多かったことから、
30年度において、ふるさと探究講座の拡充、新規事業として地域課題をテーマにした講座を開設
する。

④映像学習について

映像学習上映会を増やせないか、ニーズに答えたらいいのではないかとのご指摘を受け、今年度から新たに4地区センターで開催することとした。

上映内容は映像センターが選定し、開催日時等は地区センターに依頼している。地区センターにおける実績は、上映件数が34回で279名の方が視聴した。

今年度から、新しい試みとして取り組んでいる「16ミリフィルム」の教材映画の視聴についても、引き続き実施していくこととしたい。

⑤学習交流について

学遊祭のミニ講座を発展的に継続してはどうかとのご指摘に対し、今年度も本部学遊祭において、「とやまの自然」・「災害」・「和算」などをテーマに、人気のある講師の方の講演を行った。

キャンパスフェスティバルにおいて、学ぶ人同士が交流できる実演があったらよいのではとのご指摘に対し、今年は、実演やミニ講座等を開催し、賑わいを醸し出すなど、多くの参加者が交流を行った。

⑥その他

体験型講座を継承・充実してほしい、高齢者の生活に関する講座を実施してほしいとのご指摘があったが、平成29年度においては、「ふるさと講座」で、体験型20講座、高齢者の生活に関する講座2講座を行った。

平成30年度においても、体験型の講座は、「ふるさと探究講座（基礎）」で実施し、新規講座である「地域課題学び活かし講座」で、高齢者の生活に関する講座も予定している。

***** 質 疑 応 答 *****

【委員】 映像センターで映像を作成される時、資料収集は誰がしているのか、活用方法、配布方法やどんな方が見ているのかなど教えていただきたい。

【事務局】 DVDは500部を小・中・県立学校、公立図書館に無料で配布しており、学びに活かしてほしいと考えています。

県では、ふるさと富山を学ぶ冊子を作成しており、カレッジが作成する映像教材はそれに準拠するよう作成しています。また、4年生の社会「わたしたちの県」等の学習の際に、資料を見ながら視聴覚的効果を上げることが出来るものとなっていると考えます。

映像センターの作品は富山県が作成している立場であり、地域に偏らないよう有識者等の意見を聞きながら作り、資料収集は、映像センターの職員6名が一生懸命に撮影を行っています。

【委員】 ふるさと探究講座の基礎と専門の違い、内容が違うのか、何が専門で何が基礎なのか。

【事務局】 議事関係資料P6に記載してありますが、「基礎」は、主に現地で実際にものを見て、学んだり解説を聞いたりなど、体験を通して興味関心をもってもらい、わかりやすく学んでもらうことを目的としています。「専門」のほうは、風土・歴史・文化・産業などについて、専門的な内容を深めるような講義となるよう企画しており、より学びを深めることが出来るものとなっています。

基礎を受けてから専門というものではなく、それぞれの学びの状況に応じて自由に選んでもらうこととしています

- 【委員】 資料 P7 に、学遊ネットの情報更新に関する研修を公民館主事研修会などについて、2回実施されている。
- 滑川市でも研修を受けた結果、3館は画期的に変化し、6館も利用していることから、今後もこのような研修を行ってほしい。

■協議事項【議事関係資料（P7）事務局説明・地区センター審議概要 各地区センター会長説明】

(1) 学習機会の提供【主催講座の受講状況】について

① 主催講座について

昨年に比べ講座数が10講座増となり、そのほとんどが募集定員を満たしていることから、昨年より受講生は約1,000名程度増加している。

希望者が多いことから、受講を断るケースが多くなっている。

夏季講座におけるアンケートの結果、地域課題に関する講座の希望が多いことを受け、30年度新規講座により対応【地域課題について301名、ふるさと講座163名】

② 修了率について

夏季講座・特別講座・共学講座を除く終了率は、67.6%となっている。決して悪い数字ではないと各地区センター運営委員会で温かいご意見をいただいているが、期間・回数・曜日等の改善が必要と考える。

※夏季講座・特別講座の場合は1回で100%、共学講座は高校の授業の一環であり、出席率は9割であることから、これを含めると正しい修了率とは言えないため除くもの

③ カレッジカードの発行数について

カレッジカードの発行数は減り気味であり、新規を増やす必要がある。

(2) 生涯学習情報提供ネットワークシステム「学遊ネット」の利用状況について

① 学遊ネットアクセス件数について

利用状況は決して悪くなく年間73万～78万件で推移しているが、最近では減少傾向であるため、講座の機会を利用して、学遊ネットについてお知らせする等の対応が必要である。

② 学遊ネット情報の更新について

登録情報を更新にあたり、情報収集・入力方法の検討が必要である。

(3) 学習相談の対応について

① 相談件数

月あたり1,000程度

質問等について、対面で行うため、より分かりやすく丁寧に対応することが可能

② 相談内容

75%が相談者自身の生涯学習における相談であり、学習講座に関する相談は、5,222件と、学

びたい県民の方が多く分かる。

(4) 映像学習教材の貸出と学習機会の提供について

① 映像学習教材の貸出について

貸出数の減少については、各種学習団体・児童クラブ・公民館への貸出が大きく減ったことが要因と考えられる。

② 上映会について

優秀な映像教材の上映については、地区でも実施し、視聴者数は伸びている。

16ミリフィルムの上映については、人が集いにぎわう交流の場、同じ時間を共有する場を提供するのがカレッジとして大切であると考え、今後も拡充していきたい。

(5) 交流場の設定【学遊祭・キャンパスフェスティバルの開催】について

カレッジの5本柱の一つであり、広く県民が集い、生涯学習に係る成果の発表や情報交換を行うためにも年1回の開催は必要であると考え。

本部・地区を合わせ、昨年比909名増となっているが、来年度は、カレッジ30周年でもあることから、もっと工夫が必要と考える。

(6) 各地区センター運営会議における審議状況について

【新川地区センター】

① 学習機会の提供

修了率が70%というのは高いと考えてよいのでは、高いということの評価すべきとの意見があった。

教養講座については、単位の取得を前提として受講するという考え方はそぐわないため、興味をもったものだけを受講するのもよいのではないかと。

② 情報提供

学遊ネットを利用している方からすると、登録すれば生涯学習の最新情報が送られてくるなど大変便利であるとの声がある。

センターだよりに「QRコード」を入れて閲覧を促すことや、スマートフォンへの対応により利用拡大を図ることが出来るのではないかと。

男性の受講者が増えていることから、退職説明会等の機会を利用するなど退職者をターゲットにすることはどうか、また、気軽に参加できるよう、学びがい・生きがいとなるようなキャッチフレーズがあればよい。

③ 学習相談

受講者の満足度を確認するためにもいつでも受講者の声を聞けるような「ご意見箱」を設置してはどうか。

他の機関と連携し、多くの学習情報の提供をしてほしい。

③ 学習交流

併設校との都合もあるかと思うが、時期的に多くのイベントが重なる時期であるため、より多くの人が参加できるよう、せめて展示作品について期間や時間を長く設定することを検討してほしい。

【富山地区センター】

①学習機会の提供

修了率を上げるためには、興味・ニーズのあるテーマにするとよいのではないかと。豪雪・ゲリラ豪雨など災害関係などは関心が高いと思う。

1 講座の講義数が多いと修了率が低くなるというのが現状であるため、1 講座の開催期間を短期間とし、受講者の学びに対する意欲の熱が冷めないうちに開催するのがよい。

② 情報提供

センターだよりについては、A 4 判 1 枚に凝縮したチラシを作成し、「QRコード」も入れておくとHPへのアクセスも増えるのではないかと。

アンケートを参考に受講者の生の喜びの声を入れればPR効果が上がるのではないかと。

企業向けのお知らせ等、センターだよりの配布箇所を増やし、退職する前から情報提供すればよいのではないかと。

④ 学習相談

地区センターで学習相談ができるということをアピールするなど、情報を伝える工夫が必要ではないかと。

④学習交流

学校との連携については、よかったとの意見だが、実施日時については、意見が分かれた。

【高岡地区センター】

①学習機会の提供

高岡地区センターの修了率は70%~75%と平均より高い状態で推移している状態である。

講座内容についてHP等で詳しい情報を提供することで、受講者のミスマッチが減ると思う。

講座のテーマは具体的でわかりやすいが、50 字~60 字程度で講座に関する説明があればさらに良いと思う。

②情報提供

これからはスマートフォンの時代であることから、それに対応したHPが必要である。

HPの講座の内容については、講師の動画を掲載することで、講座の説明をしなくても大変わかりやすくなる。今後の高齢者はITリテラシーが上がってくると思われるので、こういったことに力を入れていけばよい。

③学習相談【時間がなかったため割愛】

④学習交流

プログラムの内容を見ると堅苦しい感じがあり、気軽感がない。短時間でも参加できるものがあったらいいのではないかと。

過去に行ったことがあるようだが、4階ホールで展示や催し物を行い、お祭りのような雰囲気を作ってはどうか。当時は400人~500人ほどの参加者があったようである。

親子で参加できるような体験型のものがあれば親しみやすくよい。

1階の外のスペースを活用して農産物や加工品の販売等を行ってはどうか。また、定期的に行うと賑わいづくりのきっかけになり、学習交流の機会を増やすことにもつながるのではないかと。

【砺波地区センター】

① 学習機会の提供

受講者の年齢層の中には、30代～40代の育児が一段落して昼間に時間のある女性など、何かを学びたいと思っている方がいる。新規の受講者となるような方へ情報が届くようにPR方法をもっと工夫したらよいのではないか。

砺波地区センターは砺波市・小矢部市・南砺市の3市それぞれに特徴や魅力をもっており、これらの財産はまだ提供できることから、市の生涯学習担当と地区センター担当者と話し合いをもち、特徴や魅力を生かした講座の企画・運営をしたらよいのではないか。

⑤ 情報提供

スマホ対応のHPを作成してはどうか。

⑥ 学習相談

キャンパスフェスティバルや地区センターでの講座の講師が素晴らしいことから、地元の講演会などにその方を講師としてお願いすることがたびたびあった。

③ 学習交流

キャンパスフェスティバルで自遊塾の県民教授の方の特別講座やワークショップをしてもらったらどうか。

他県（石川県など）との生涯学習機関との交流をしたらどうか。

キャンパスフェスティバル以外にも、日頃から、学習サロンで作品展示を行うことで日常の学習交流ができるのではないか。

***** 質 疑 応 答 *****

■学習機会の提供について

【委員】 カレッジは、これまでの30年間、いろいろと素晴らしい講座を展開され、受講者数は右肩上がりて来られたのではと思うが、現在の受講者の年代は70代前後が一番多いと思われるため、これから先10年は右肩下がりの方向に進むような気がする。

そのため、講座の数と受講者数の増が比例していないということは、ニーズがあっていないということになると思われることから、受講者の年齢や仕事等参加者の属性の分析などを行い、3年度、5年後の受講制度を考え、受講者の数がどうなっていくかを見る必要がある。

これからの高齢化時代を迎え、富山県の魅力、育児の魅力、文化や歴史の魅力などを学ぶことによりまだまだ成長できる場所はたくさんあると考える。

【委員】 講座内容や講座のもち方として、定年後の時代に応じた仲間づくり、講座を通して人と地域課題について考えるという講座があってもいいのではないか。

講座一本やりではそのまま散っていくが、講座を通してみんなでいろいろ考えるというアクティブラーニングが必要であり、今後増えていくのではないか。

【委員】 羽生名人が特別講座に来られたことは大変素晴らしく、何よりの宣伝効果であり、どんな方を呼ぶかがこんなに大きいことなのかと思った。

また、映像資料DVDを学校に配っているとのことだが、学校のほうは、棚の中に仕舞い切りきり

になるだろうと寂しい思いになった。

高岡の小学校ではスタンプラリーを行っているがその一つに地区センターの映像も見るとか、学校では見る機会がないのであれば、学校以外の場所で見ることがあれば価値が上がると思うので、夏休み期間にどこか場所を提供してもらおうとよいのではないかと。

【委員】 新規のカレッジカード発行数は少なくなっているということではあるが、この方々が何を機会にカレッジを知ることになったのか、どの講座に魅力を感じているのか等の分析することで、受講者が増えるのではないかと。

まだまだ学びたいという意欲を思っている人はたくさんいる。70代・80代の高齢者だけでなく若い世代も含め、どういことを学びたいのか、実際に地域に役立つような、行動に結びつくような講座、その場限りではなく、何かのネットワークにつながる、防災などはそうだと思うが、生活を変えていけるような講座の工夫があれば、実利を兼ねているし、まだまだ受講者が増えていくと思う。

新規の講座受講者の実態・きっかけなどを詳しく分析していただければと思う。

【事務局】 受講者の分析、新規のカレッジカード発行者に係るアンケートは大切なことだと思っています。

カレッジの機能の中に「調査・研究」という項目があるので、次年度に向けて、調査・分析し、よりよい講座に結びつけて行ければよいと思います。

自分たちの生活にかかわるネットワークにつながる講座については、来年度の新規講座である「地域課題学び活かし講座」において、可能であれば、各地区センターの講座を受講された方々に対し、何らかの意識づけや思いを高めることができ、受講者の方々に意見交換できる雰囲気が出れば、一歩踏み込めるかと思っています。

【学長】 特に今年については、大きな講座の年齢層は40歳代～50歳代が多く受講されている。受講者の年齢層はどんな講座を行うかによって大きく異なる。

地区センターで行う講座だけがカレッジの講座ではなく、自遊塾という、体験を通して一緒に学ぶ合うという形の講座も行っており、ここにも、50代～60代、リタイヤしたばかりの男性が多く受講されていたのが今年の傾向であり、このようなことを続けていけばよいと考える。

羽生さんについては、第2夏季講座をやろうということから始めたものですが、その時期がなかなか合わないということで、結果として2月となったものである。

講師選定はなかなか難しく苦労しているが、今後とも著名な方を呼べるように努めたい。

【事務局】 夏休み期間における、映像シアターの開催については、なるほどと思わせていただきました。

学校で活用してもらおうのにどうしたらよいかということで、富山県視聴覚教育研究会で時間をいただき、具体的な活用方法の説明を行ったりしています。

また、返信アンケートにおいて、別の作品についても、資料を活用させていただいたとか、明治150年についての歴史を学ぶということで、『米澤紋三郎』のDVD、薬学を目指す子供たちが「売薬物語」のDVDを見て大変勉強になったと回答をいただいています。

今後とも、少しずつ活用できることを紹介していきたいと考えております。

今ほどのご提言のありましたPTAの親子学級等への活用等についてもどのように働きかけるかをまた検討したいと思っています。

【会長】 カレッジの叢書については、これまでも錚々たる方々をお呼びしたという実績があり、一時期は年間8冊を作成し、その3倍から4倍の方を講師としてきていただいたのが実態である。

今は、夏季講座1本となっておりますが、たまたま今回努力された結果、羽生さんを呼ぶことが出来たということである。

■情報提供・学習相談・映像学習教材等・学習交流等について

- 【委員】 DVDについてですが、私も一人ひとりの子どもたちに届いていないというのは同感である。
もし自分が担任であるとしたら、こんな素晴らしい財産があることは見せてやりたいと思うが、各学校の窓口になっている映像担当者と別の担当教諭を結びつける方法があればと思っている。教育実習における模擬授業にこれを使うなどやってみたい。
- 【委員】 DVDについては、素晴らしい内容だと思った。
滑川市でもジオパークに関する冊子を作っているが、子供たちの学習活動に是非利用させていただきたい。また、学校のみならず、公民館・社会活動における体験型の講座の事前学習・オリエンテーションにも是非利用したい。
- 【委員】 生涯学習社会をどういう風に進めていくのか。そのキーワードは相談業務である。
学習について、講座について、問合せ相談、今後どのような学びを展開しているかというプログラミングというか、次のステップに繋がる学びが今回の資料では読み取れなかった。
問合せということは、スマホなどによる要望等があり、そこで処理できるのではないか。プラスして考えてほしいのは、「その人のための学習プログラム」、その人が豊かな人生を送れるための学習機会の提供等ができるよう、きめ細やかな相談業務に徹していくことが必要ではないか。
生涯学習は年齢層が広いので、子育て世代とか切実な内容を学びたいという者も出てくるのではと予想される部分もある。もっと実生活に即した自分の生活が豊かになるテーマについて学びたいという潜在的学習者(学びを足踏みしている人)はまだ県内にはいないはずだ。
何を学びたいのか、どのような曜日時間帯であれば踏み出せるのか、幅広くアンテナを立ててほしいと思う。アンケートは、来ている人のアンケートでしかないことから、その他の人のアンケートをもとに、30年が過ぎた今、幅広く考えていってもいいのではないか。
自遊塾は素晴らしいと思う。活動している人の姿をもっと県民に伝えていけばよい。そうすれば、具体的に何を学べばいいか組立ができ、学習相談の幅をもう少し広げていくことができる。これは人でなければできないことであり、マンパワーには限りがあるが、カレッジであればできると思うので新しい相談形態に期待したい。
- 【委員】 ずいぶん前から、叢書についても、映像についても、たくさんものがあるということは存じていたが、富山県の宣伝下手というか、存在の素晴らしさをもっとアピールしたらよい。
HPを斬新に新しくして、参加者がツイートするなど、体験的、実技的、座学的なことがいろいろと伝えることが出来たら、定年退職した方も若い世代の方も見てくれるような情報発信源になるのではないか。スマホ対応、ツイート対応に予算を投じてほしい。
- 【委員】 スマホ対応については、若い人が参加してよかったということが届くような県民学習カレッジの内容になれば、よりよいのではないか。
講座内容については、新規の地域課題について希望することとなるが、どうしてもふるさとに偏っている感がある。富山県は健康寿命日本一を目指している。やはり富山県の課題である、健康を意識した講座内容について、もう少し取り上げていただければ、今後の30年に向けていいのではないかと思う。富山県は胃癌罹患率全国トップであり、大変危惧しており、是非、ご検討願いたい。
- 【事務局】 学習相談については、講座に関することや講師のこと等の問合せはありますが、個人の生涯学習に特化したというのはちょっと難しいのではないかと思います。
地域課題学び活かし講座については、生活に関わることや健康・食物等についても盛り込んでいけるよう今後工夫していかなければならないと考えています。
宣伝を上手にするということは大変重要であり、学遊ネットがあるということをもっと知ってもらふこ

とにより、学びの和が広がっていけばいいと思います。

学遊ネットですが、県民カレッジの情報だけではなく、一人一人がどんなことを学んだらいいのか、他の市町村や大学が開いている学習が調べられるようになっていきます。

- 【委員】 今日初めて参加し、様々な生涯学習に関する講座があるのだと知った。
映像センターからいただいたDVDも含め、PTAの親子学級で使えないかという話もあがったが、映し出して見ることが出来るところが学校以外になく、どうやって実現すればいいのか少し工夫が必要だと思った。
子どもたちも親たちも忙しい中、講座に参加にできるのなら単発ものとなってしまう。
シリーズものだとなかなか参加できないが、大きな講座などであれば、誘い合って参加されるのかなと思う。
仕事の関係で、学遊ネットの公民館サイトを利用させていただいている。それぞれの公民館の活動なども掲載されており、大変多くの公民館があるが、条件を設定して検索すると希望の内容を行っているところが少なくなってしまう。公民館は集いやすいが学びを続けるという点では継続的に講座を行うことは難しいと思う。
学びたい人はたくさんいるが、継続的に学ぶ方は、時間に自由のある高齢者で、グループで学びたいと思っている人が多い。また、高齢者は街中まで出てこられないような人もいるのでそういう人たちが持続的に学んだり、子供と交流したりする場があればいいと思う。

- 【委員】 実際にカレッジの自遊塾で学んでいる方が、様々な次元で最初は自分が学び、自分が発表し、グループを作り、さらにその成果を発表する等素晴らしい活動を行っている人がいる。
児童館や子ども図書館など、子どもの活動について最も人気があるのは、食の体験型の活動、親子学習などの子育て支援の講座や相談となっています。県民カレッジとしては、どの部分においてどんな役割を担うのか、様々な内容をどこでどう整理するのかは大切だと思います。
子どもたちが学習したことを発表すると、自分たちの地域のことを知らなかったという大人もいる。そういう意味でも、地域発見につながる「町歩き」は必要だと思う。

- 【会長】 委員の皆様にはたくさんのご意見をいただきありがとうございます。
予定時間も過ぎておりますので、皆様のご意見のうち、「地区センターの修了率をどうみるのか」、「予算面の課題はあるが」、「学遊ネットのスマホ対応、若者の取込みについて」、「公民館の活動について」の3点について、学長から閉会の挨拶に併せて説明をお願いすることとし、議事を終了いたします。
ご協力ありがとうございました。

■閉会【学長】

まず、修了率について、修了率を上げることありきで考えるのかということについては、カレッジとしては、講座として作っていく以上、関連性をもって作られているものと理解しているので、それを全部履修することが出来ないというとは、企画そのものに問題があると考えられるものである。

今後、回数の問題、開催時期の問題等についても考えていくこととしたい。

次に、スマホ対応については、2カ所ほど地区の運営会議に出た際に、若者を取り込むということでスマホ対応があればいいという意見であったが、現在も学遊ネットはスマホで見ることは出来る

考えている。

ただ、学遊ネット自体は、最初に作ってからずいぶん年数が経過し、これまでもいろいろつぎはぎしながら現在の形になっていることから、ある情報を探そうとしたとき、その情報を学遊ネットでは保有しているにもかかわらず、入り方が分からずに見つけられなかったというのが今の実態である。

できるかどうかわからないが、スマホ対応よりも、そもそものところを改善していかなければならないのではないか。もともとカレッジの受講者は60歳以上の方が多く、50代・40代、それより若い人は仕事が忙しいこともあることから、スマホ対応については可能ならば対応することとし、まず取り組むべきは、現在のものを作り替える方が先であると考えている。

最後に、公民館に関することであるが、公民館とは、英語ではCLC＝コミュニティ・ラーニング・センターと言われ、地域の学習拠点であり、その核となるものは、知る機会を提供することである。

そういう意味で、各公民館では、実施している講座を学遊ネットに情報入力し、学遊ネットを通して情報提供しているが、残念ながら公民館によって入力状況に差があるのが実態であります。

本日は、このほかにも多岐にわたり、様々なご意見いただくことができました。
どうもありがとうございました。